雪印 カーフミールと犢用配合飼料

仔牛の育成にはカーフミールが常識になりました。

脱脂乳はもう時代遅れです。

雪印カーフミールは、北海道飼料協会が中心となって、北海道大学農学部、北海道農業試験場の技術陣の手で完成された乳汁代用飼料です。

雪印カーフミールの内容

乳製品	三五・〇	ルーサンミール	二・五
植物油粕	三二・五	無機物	一・九
穀類	一七・〇	骨粉	〇・七
魚粉	五・〇	抗生物質	〇・四
小麦胚芽	五・〇	ビタミン添加	
可消化養分総量（T・D・N）			七六・二三％
可消化粗蛋白質（D・C・P）			二六・三四％
栄養率			一：一・八九

雪印カーフミール一八〇㌘の栄養価は、全乳と脱脂乳の中間成分の乳汁一・八㍑に相当します。

雪印カーフミールの特長

① 仔牛の胃腸は早くから固形物を消化吸収する素質があるので、早くから固形物の多いカーフミールを給与する事が、むしろ胃腸の発達を促進して、短期間で健康な仔牛の育成が完成されます。

② 脱脂乳にまさる栄養があり、味もよく仔牛が喜んで食べます。

③ 雪印カーフミール給与により仔牛の発育が非常によく、アメリカにおける仔牛の発育標準を一〇％上廻っています。

④ 抗生物質が添加されているので、発育を促進するとともに、下痢とかその他生理的障害が殆どありません。

⑤ 給与法が簡単であり、特に従来の牛乳や脱脂乳による仔牛育成の場合、夏期は輸送途中における変敗、冬期は凍結などいろいろと悩まされたのですが、カーフミールによるとその心配と手数がいりません。

⑥ 牛乳や脱脂乳に比較して短期間で育成が完了できるので育成費の節減ができる。

雪印カーフミールの給与法

① 生後三週間は初乳、脱脂乳で哺育し、三週目以降四〜五週目ぐらいまでに徐々にカーフミールに切り換えます。

② カーフミールは、始めの一週間は給与の都度、全乳か脱脂乳（摂氏約四〇度に温める）または約一〇倍量の温湯に溶かし、沈澱ができぬように攪拌しながら与え、その後は、粉のままで与えてなめつくした後に、全乳か脱脂乳またはぬるま湯を与えます。

③ カーフミールの給与量が増すに従って、全乳、脱脂乳の給与量が減じますから、それだけ余分に水を与えて下さい。生後七週目以降は欲しがるだけ水を与えて下さい。

④ 給与回数は午前七〜八時、午前十一〜十二時、午後五〜六時の一日三回が理想的です。

⑤ 生後一〇週目より一握り程度の犢用配合飼料を与え、徐々にその量を多くして、一五週以降は犢用配合飼料で飼育します。

⑥ 生後四週目より良質の乾草または良質の青刈飼料を与えはじめ自由に喰べさせるようにし、一〇週目頃には一日一頭あたり約一㌔㌘採食するようにしむけます。青刈飼料は乾草の四〜六倍の目方を与えて下さい。

⑦ カーフミールの標準給与量は次の通りですが、実際の給与に当っては仔牛の採食量、糞の状態をよく注意して加減して下さい。発育が標準以下（胃腸障害等で）の仔牛には日量を減じて給与日数を延ばして下さい。

⑧ 一回の給与量は一日分を等分して給与して下さい。その際添付の計量器（紙桝）を使用すると便利です。

雪印カーフミール給与標準（1日1頭当り）

週齢＼飼料名	全乳	カーフミール	犢用配合飼料	乾草
	kg	g	g	g
1〜3	生後3週間は初乳、脱脂乳で育成して下さい。			
4	4.5〜3.0	180〜 400		200〜
5	2.0〜1.5	600〜 800		200〜
6		1,000〜1,150		300〜
7		1,150〜1,450		500〜
8		1,450〜1,800		650〜
9		1,850〜1,900		800〜
10		1,900〜1,650	50〜 300	900〜
11		1,600〜1,200	350〜 700	950〜
12		1,150〜1,000	700〜 850	950〜
13		950〜 600	850〜1,000	1,000〜
14		500〜 150	1,100〜1,350	1,100〜
15		150〜 50	1,400〜1,500	1,200〜